

平成28年度 愛媛県公共事業評価委員会（第2回） 議事録〔要旨〕

日時：平成29年2月21日（火）
13：30～14：30

会場：県庁第一別館11階会議室

- 1 開会
- 2 開会挨拶
- 3 審議

（仮称）中山スマートインターチェンジアクセス道路整備事業
（市）日尾野引坂線

【伊予市】

地域の概要、事業概要及び経緯、事業の必要性及び整備効果等、事業の進捗状況及び進捗の見込み、事業の投資効果、コスト縮減や代替案立案等の可能性、対応方針を資料により説明。

【服部委員】

事業の進捗率が11.1%であるが、平成31年度の完成には間に合うのか。

【伊予市】

今までは、主に用地買収を実施していたため進捗率が低くなっているが、年度内には用地買収を完了できる見込みである。

来年度から工事に着手するので、平成31年度の完成には間に合う予定である。

【片岡委員】

「クラフトの里」を「道の駅」に整備拡充するとあったが、スマートインターチェンジ（以下スマートIC）が整備されると利用者が急に増加するかは疑問が残る。少しでも集客できるように、「道の駅」への案内板は、高速道路出口（今回新設される出口）に設置するのか。

また、可能であれば、地域のオリジナリティを出していくためにも、今回のスマートICの名称についても地域性の感じられる名称にされることを検討されてはいかがか。

【伊予市】

高速道路への案内板の設置及びスマートICの名称については、今後関係者と検討していきたい。

【青野委員長】

スマートICがもたらす効果により、まちづくりを実現していくとあるが、他の地域と比較してどのような特色を出すかが重要である。

【中矢委員】

スマートＩＣは全国でどれくらい事例があるか。また、ハーフＩＣとフルＩＣの事業費はどれくらい違うのか。さらに、整備することによって旧双海町にも効果はあるのか。

【伊予市】

事業中箇所を含めて全国には１５８箇所ある。フルＩＣにすると事業費が約２５億円であり、約１．３倍となる。なお、南予方面への交通量が少なく費用対効果を考慮したうえでハーフＩＣとした。旧双海町へは、「道の駅ふたみ」なども近くなることから好影響があると考えている。

【吉井副委員長】

伊予ＩＣと内子五十崎ＩＣ間の距離は、他と比べても長くなっており、整備することで様々な効果が期待できる。スマートＩＣは地域産業の活性化に繋がるため、整備促進に期待したい。

<審議結果とりまとめ>

【青野委員長】

本事業については、伊予市の対応方針のとおり事業継続としてよろしいか。

(全員異議なし)

4 閉会挨拶

5 閉会